弥生時代

名前

問1　弥生時代に大陸から伝来した金属器に関する統計資料において、武器や工具として実用的に使われたものとは別に、主に祭祀や儀式の道具として分類される金属器があります。銅鐸や銅鏡などが代表例である、この金属器の名称として適切なものを選びなさい。（2020年 熊本県公立入試 類似）

1. 鉄器
2. 須恵器
3. 青銅器
4. 打製石器

問2　鳥取県の青谷上寺地遺跡などの出土品をまとめた資料では、木製品や骨角器とともに、石器、金属器、そしてこの時代の特徴的な土器が並んで示されています。これらの道具が併用されていた弥生時代の土器に見られる、縄文土器と比較した際の外見上の特徴として、最も適切なものはどれか。（2016年 鳥取県公立入試 類似）

1. 青灰色をしており、非常に硬く焼かれた朝鮮半島由来の技術で作られている
2. 仏教の儀式に用いるために、表面に金色の装飾や仏像が描かれている
3. 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である
4. 表面に縄目のような力強い文様がつけられ、全体的に厚手である

問3　福岡県の志賀島で発見された、「漢委奴国王」と刻まれた金印に関する記述として、当時の外交関係を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 長崎県公立入試 類似）

1. 聖徳太子が小野妹子を派遣した際、隋の皇帝から対等な外交の証として贈られたものである。
2. 邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から親魏倭王の称号とともに授けられたものである。
3. 室町幕府の足利義満が、明の皇帝から日本国王として認められた際に授かったものである。
4. 中国の王朝である漢（後漢）の皇帝が、倭の奴国の王に与えたものである。

問4　邪馬台国の女王である卑弥呼は、239年に中国の魏へ使節を送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かりました。卑弥呼がこのように中国の王朝と外交関係を結んだ主な政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 徳島県公立入試 類似）

1. 魏で施行されていた律令制度を学び、日本で最初の本格的な法治国家を建設するため
2. 魏から金銀などの貴金属を輸入し、国内で独自貨幣の発行を開始するため
3. 魏の皇帝の権威を利用することで、対立していた狗奴国などに対して自国の優位性を示すため
4. 朝鮮半島南部にある任那の日本府を維持するために、魏へ軍事支援を要請するため

問5　弥生時代の国際関係についてまとめた学習表において、1世紀に「奴国の王」が後漢の光武帝から授けられたとされる「金印」が、実際に見つかった場所として正しいものはどれですか。（2015年 佐賀県公立入試 類似）

1. 佐賀県の吉野ヶ里遺跡
2. 大阪府の大仙陵古墳
3. 福岡県の志賀島
4. 奈良県の纒向遺跡

問6　当時の日本（倭）では多くの小国が分立して争いが続いていたことが中国の歴史書に記されています。このような状況下で、邪馬台国の卑弥呼が魏に使節を送り、皇帝との外交関係を築いた主な目的は何ですか。（2019年 広島県公立入試 類似）

1. 大陸で広く信仰されていた仏教を日本に導入することで、宗教の力によって国内の戦乱を鎮めるため
2. 魏の皇帝から倭王としての国際的な承認を得ることで、国内の他勢力に対して優位に立ち、支配を安定させるため
3. 魏が定めていた律令などの法律や官僚制度を取り入れ、天皇を中心とする中央集権国家の仕組みを整えるため
4. 魏の進んだ鉄器製造技術を独占することで軍事力を高め、武力によって一気に日本列島を統一するため

問7　弥生時代、大陸から金属器が伝わったことで人々の生活は大きく変化しましたが、当時の「青銅器」の主な用途と代表的な道具の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。（2018年 大阪府公立入試 類似）

1. 食料を保存・調理するための容器として用いられ、須恵器などが作られた。
2. 祭祀や儀式のための道具として用いられ、銅鐸や銅鏡などが作られた。
3. 頑丈な農具として開墾に用いられ、すきや鍬（くわ）の先などが作られた。
4. 鋭利な刃物として戦闘に用いられ、剣や矛などの武器の主流となった。

問8　弥生時代に製作された青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面には当時の生活の様子や動物の文様が刻まれている「銅鐸（どうたく）」は、主にどのような目的で用いられたと考えられていますか。（2022年 群馬県公立入試 類似）

1. 収穫した穀物を煮炊きしたり、保存したりするための調理器具として用いられた
2. 作物の豊かな実りを祈るなどの祭りの道具として用いられた
3. 集落間の戦いにおいて、敵を攻撃したり威嚇したりする武器として用いられた
4. 衣服を織るための繊維を整えたり、糸を紡いだりするための機織り用の道具として用いられた

問9　中国の歴史書とそこに記された倭（日本）に関する記述の組み合わせについて、記述内容から判断して「魏志」倭人伝の説明として最も適切なものを選びなさい。（2024年 沖縄県公立入試 類似）

1. 倭人が100余りの国に分かれ、朝鮮半島の楽浪郡に定期的に使者を送っていたとする記述
2. 倭王が中国の皇帝に対し、自らを「日出づる処の天子」と称する国書を送ったとする記述
3. 邪馬台国の卑弥呼が使いを送り、死後には大きな塚が作られて100人余りの人々が殉葬されたとする記述
4. 倭の奴国の王が後漢の皇帝から金印を授かり、のちに倭国全体で大きな乱れが起きたとする記述

問10　3世紀から17世紀までの日本の政治の展開や社会の様子を、AからDの4つの期間に分けて整理した年表があります。このうち、最も古い時期である「A」の期間として示されている「3世紀」とは、西暦で表すとどの範囲を指しますか。（2023年 山形県公立入試 類似）

1. 西暦301年から400年まで
2. 西暦201年から300年まで
3. 西暦101年から200年まで
4. 西暦200年から299年まで

問11　弥生時代に大陸から稲作とともに伝えられた金属器のうち、強度が非常に高く、主に武器や工具、木製農具の刃先などの実用的な道具として用いられたものはどれですか。（2023年 大阪府公立入試 類似）

1. 鉄器
2. 打製石器
3. 磨製石器
4. 青銅器

問12　1世紀の日本（倭）において、奴国の王が中国の後漢へ使いを送り、皇帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かった政治的な目的として、最も適切なものはどれですか。（2024年 佐賀県公立入試 類似）

1. 仏教を日本に伝来させるための正式な許可を、中国の皇帝から得るため
2. 遣隋使や遣唐使を派遣する前の準備として、航路の安全を中国側に確認するため
3. 中国の律令制度を日本に導入し、天皇を中心とした中央集権国家を築くため
4. 中国の皇帝から自国の支配者としての地位を認めてもらい、周囲の小国に対して権威を高めるため

問13　弥生時代の遺跡から出土する銅剣や銅鐸（どうたく）などの青銅器について、日本における当時の主な使用目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2021年 佐賀県公立入試 類似）

1. 戦場において敵を攻撃したり身を守ったりする実戦用の武器として使われた
2. 木を切り倒したり土を掘り起こしたりするための農具として使われた
3. 集落の祭祀（さいし）や儀式において用いられる祭りの道具として使われた
4. 大陸との交易において支払いに用いられる、価値の基準となる貨幣として使われた

答え合わせ・解説

問1	答え 3 青銅器	弥生時代には、鉄器とほぼ同時期に大陸から青銅器が伝わりました。鉄器がその硬さを活かして武器や農具、工具として実用的に使われたのに対し、青銅器は磨くと光り輝く性質などから、豊作を祈る祭り（祭祀）や村の重要な儀式に用いられる特別な道具として重宝されました。
問2	答え 3 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である	弥生土器は、装飾が豊かだった縄文土器と比較して、表面に細目の文様が施されるなどデザインが簡素化され、調理や貯蔵に適した薄くて機能的な形状へと変化しました。青谷上寺地遺跡のように、金属器や木製品など多様な道具が登場した背景には、稲作を中心とした計画的な生産活動への移行があります。
問3	答え 4 中国の王朝である漢（後漢）の皇帝が、倭の奴国の王に与えたものである。	この金印は、1世紀（紀元57年）に倭の奴国の王が中国の後漢へ使者を送った際、光武帝から授けられたものです。中国の歴史書『後漢書』東夷伝には、この出来事に関する記述があり、江戸時代に福岡県の志賀島で金印が実際に発見されたことで、当時の日本と中国の間に公的な外交関係があったことが証明されました。
問4	答え 3 魏の皇帝の権威を利用することで、対立していた狗奴国などに対して自国の優位性を示すため	邪馬台国は、南に位置する狗奴国と激しく対立していました。卑弥呼は当時、中国で強大だった魏の皇帝から公式に「倭の王」として認められることで、その権威を背景に国内の統治を固め、対立勢力に対して有利な立場を得ようとしたと考えられています。これは当時の東アジアにおける国際秩序を利用した外交戦略でした。
問5	答え 3 福岡県の志賀島	1世紀の57年、倭の奴国が中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授かったことが中国の歴史書『後漢書』東夷伝に記されています。この金印は、江戸時代に現在の福岡市にある志賀島で農作業中に偶然発見されました。印面には「漢委奴国王」と刻まれています。
問6	答え 2 魏の皇帝から倭王としての国際的な承認を得ることで、国内の他勢力に対して優位に立ち、支配を安定させるため	弥生時代の日本列島は、多くの小国が争う「倭国大乱」と呼ばれる混乱期にありました。卑弥呼は、大陸の強国である魏から公式に「倭の王」として認められることで、自らの地位の正当性を高めようとしました。授かった金印や銅鏡を国内の有力者に分け与えることは、自らの権威を可視化し、他の小国を従わせるための高度な外交手段でした。なお、仏教の伝来や律令の導入は後の飛鳥時代以降の出来事です。
問7	答え 2 祭祀や儀式のための道具として用いられ、銅鐸や銅鏡などが作られた。	弥生時代には鉄器と青銅器がほぼ同時に伝わりましたが、それぞれの金属の特性に応じて使い分けがなされました。鉄器は硬くて鋭いため、武器や農具などの実用品として普及しました。一方、青銅器は美しい光沢を持つことから、神をまつる際の祭具や、村の権威を示すための道具として使われました。
問8	答え 2 作物の豊かな実りを祈るなどの祭りの道具として用いられた	銅鐸は、弥生時代を代表する青銅器の一つです。当初はつり下げて鳴らす楽器として使われていたと考えられていますが、次第に大型化し、豊作を祈るための祭礼や儀礼において重要な役割を果たす「祭祀具（さいしぐ）」として用いられるようになりました。表面に刻まれた鹿や農耕の様子などの文様は、当時の生活や信仰を知るための貴重な史料となっています。
問9	答え 3 邪馬台国の卑弥呼が使いを送り、死後には大きな塚が作られて100人余りの人々が殉葬されたとする記述	「魏志」倭人伝は、邪馬台国の政治体制や女王卑弥呼の死、そしてその後の大規模な埋葬儀礼について具体的に伝えています。他の選択肢について、100余りの国に分かれていたとするのは紀元前1世紀頃の「漢書」地理志、金印の授与や倭国の乱れ（倭国大乱）は1世紀から2世紀頃の様子を記した「後漢書」東夷伝、天子を自称したのは7世紀初頭の「隋書」倭国伝の記述です。
問10	答え 2 西暦201年から300年まで	世紀とは100年を一つの単位として時代を区切る方法です。西暦1年から100年までを「1世紀」と定めるため、2世紀は101年から200年、3世紀は201年から300年となります。日本の歴史において3世紀は、邪馬台国の女王である卑弥呼が中国（魏）に使いを送った時期などを含む、国家形成の重要な時期にあたります。
問11	答え 1 鉄器	弥生時代には大陸から鉄器と青銅器という二種類の金属器が同時に伝わりました。青銅器が祭祀（祭り）や儀式のための道具として用いられたのに対し、鉄器は硬度が高く鋭い刃物を作ることができたため、戦いのための武器や、木材を加工する工具、開墾効率を高めるための農具の刃先として幅広く活用されました。
問12	答え 4 中国の皇帝から自国の支配者としての地位を認めてもらい、周囲の小国に対して権威を高めるため	1世紀の日本は多くの小国に分かれており、それぞれの王は中国の王朝へ朝貢（貢ぎ物を送る）することで、自らの支配権を国際的に認めてもらおうとしました。中国の皇帝から「印」や「称号」を授かることは、国内の競争相手に対して有利な立場を築くための重要な外交手段でした。
問13	答え 3 集落の祭祀（さいし）や儀式において用いられる祭りの道具として使われた	大陸から日本列島へ伝わった青銅器は、その多くが実用性を超えて大型化したり、非常に薄く作られたりする傾向がありました。これは、実際に物を切る・突くといった武器としての用途よりも、集落の豊作を祈る儀式や、共同体の団結を確認するための祭事において、富や権威を象徴する「祭器（さいき）」として重宝されたことを示しています。